

21. 大阪府営大泉緑地 “ふれあいの庭” “五感で感じる工夫を施したユニバーサルデザインの庭”

背景

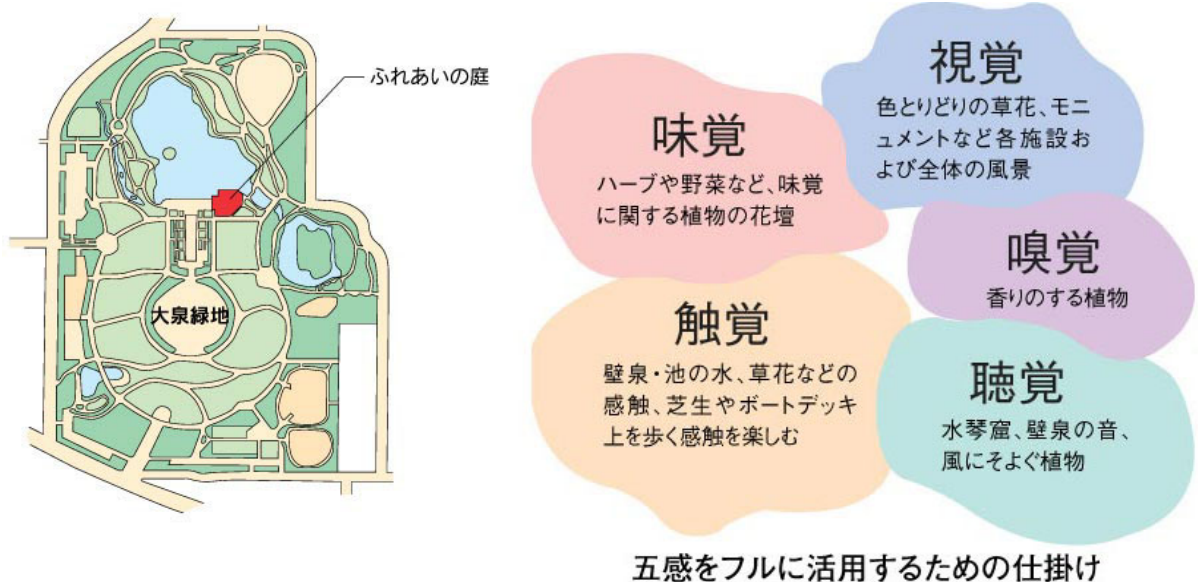
大阪府では1970年代から府営公園に“盲人コーナー”を設置するなどの対策を講じており、この一連の政策のなかで「ハートフルパーク実施計画」が1993年（平成5年）に策定された。同計画に基づき、各公園の施設改修などを進める「新ハートフル事業」がスタート。大泉緑地内の「盲人コーナー」のリニューアルとして「ふれあいの庭」が誕生した。

概要

開園：平成9年

施設規模：0.2ha（大阪府営大泉緑地内）

基本コンセプト：五感を通じて憩いや安らぎを感じられるユニバーサルデザイン



<基本コンセプトを5つのゾーンで表現>

- エントランスゾーン**：園内の幹線道路に面して花壇を配し、庭園の雰囲気、親しみやすさ、入口の分かりやすさを表現。音声案内、触知案内板により利用方法を伝える。
- キッチンの庭**：ハーブ、野菜など味覚に関する植物を集めたゾーン。実際に触れて楽しめる。
- 香りの庭**：ハーブを中心に香りのする植物を集めて、香りにより安らぎや、季節感、爽快感を感じられるゾーン。
- 色の庭**：階段状のボーダー花壇に、四季の彩り豊かな草花が植えられている。生垣、芝生、ボーダー花壇と調和する様に配色されたゾーン。
- 音の庭**：修景池の水や水性植物に触れたり、壁泉、水琴窟などの水の音とのふれあいを楽しむゾーン。

事前調査

以下の調査やワークショップを通して計画された。

ヒアリング調査

<内容> 視覚障害者：既設の公園の使いやすさ、使い難さ、公園への要望

福祉団体、研究者：専門の立場から見た視覚障害者等に配慮した公園のあり方

<目的> 視覚障害者等に配慮した公園整備に配慮する

<対象者> 視覚障害者、盲学校関係者、王立全英盲人協会等 計6箇所で実施

ヒアリングにより、色の対比 照明設備 材質 配置などの視覚障害者への配慮が設計に反映されるとともに、静かな水音で流れるカナル、触って楽しめる彫刻、手触りや香りを楽しめる植物などが取り入れられた。

意識調査

<内容> 健常者が障害者の公園利用をどう捉えているのかをアンケート調査。

<目的> 健常者、障害者が公園内で共存し、互いに理解し合うための可能性を探る

<調査場所> 服部緑地

<対象者> 一般来園者約100名

意識調査により、健常者と障害者が相互に理解しあうためには、両者が歩み寄れるプログラムやボランティア援助システムが必要であることが明らかになった。

ハートフルパーク・ワークショップ

<開催場所> 服部緑地 ちかくの森

日本民家集落博物館（大和十津川の民家）

<参加者> 聴覚障害者：3名 車いす使用者：1名 健常者：5名

<目的> 公園の整備、改修に当たって、公園を利用する人がどういう公園を求めているかを把握する

<ワークショップで検討された内容>

障害のある人への配慮	
花壇	一部の花壇は天端高を高くし、車いすの人が花壇の草花に近づきやすいように配慮している。
案内板	案内板には点字を付けている。入り口付近には触知板と音声案内を設置。触知板には園内の順路、主要施設の位置などが点字、文字で併記。触知板に組み込まれた音声案内は押しボタン式。
誘導施設	ふれあいの庭を一周できるように、ステンレスのラインで誘導

先進事例調査

アメリカの植物園内の3庭園を調査

- ・シカゴ・センサリー・ガーデン
- ・デンバー植物園・モリソン園芸展示センター
- ・ワシントン・ゴールドゲート公園 ストラビング植物園

先進事例の調査により、四季を通して色彩、香り、手触り、音などが楽しめる様々な特色ある植物の配置、そして来園者が植物に親しめるような配慮（レイズドベッド・解説ボランティア）が「ふれあいの庭」の設計に反映された。

配慮事項

事前調査を踏まえ、「ふれあいの庭」で反映された配慮事項。



点字付きの植物の説明文



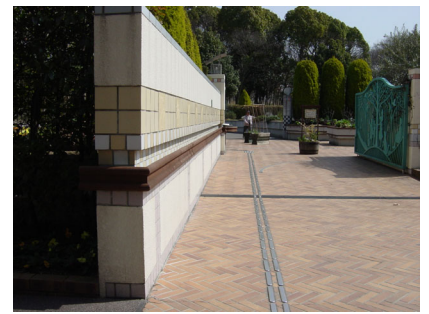
樹木を刈り込んで造られたトピアトリーの窓



かがみ込まず読むことができる植物の説明版



レイズド・ヘッド（車いすの人でも触ることができる花壇）の設置



ふれあいの庭への誘導を促した、基幹園路沿いへの手すりの設置



立ち上がりやすいように肘付きで、隣接して車いす用スペースが設けられたベンチ



水に触れることができる高さに考慮した修景池（レイズドポンド）

ボランティアを活用した園内の維持管理

<ヒーリングガーデナー>

ソフトプログラムの開発（野外活動、公園案内）の一環として育成し、ヒーリングガーデナーと名付けた府民ボランティアが活躍している。半年間研修を行ったあと、高齢者や身障者が公園を利用できるよう、車いすを押したり公園の案内などのサポート実地訓練を兼ねて約1年間の行う。その後、“ヒーリングガーデナークラブ”として自立して活動をしている。

今後の展開

- ・ 利用者の使いやすさの評価（事後調査）について現在検討中である。
- ・ ヒーリングガーデナーの育成など、ハードだけでなくソフト的な仕組みづくりも重要視する。

問い合わせ先等

【問い合わせ先】大阪府南部公園事務所